

口絵1：浅間山の2004年噴火
Pictorial 1：Asama Eruption of 2004



図 1 2004年9月17日8時の浅間山火口底．新しく出現した溶岩が同心円状の縞模様をつくる．中央にガスを激しく噴出する割れ目がいくつか見え，高温部分が赤く露出している（読売新聞社提供）．



図 2 1950年9月23日の爆発で釜山火口北縁にのった千トン岩と，2004年9月23日の爆発で釜山北西山腹にのった百トン岩．火口寄りの着弾点に直径4mのクレーターがみえる．2005年3月20日撮影．

口絵 1 (つづき): 浅間山の2004年噴火
Pictorial 1 : Asama Eruption of 2004



図 3 9月1日爆発で飛散した高温火山弾によって生じた山火の跡。焼け焦げの中央にある火山礫は、直径6mのクレーターをつかって着地した火山弾の破片。火口から1.6kmの標高2000m地点で9月3日に撮影。



図 4 国道146号沿い園地の芝生から拾い集めた9月1日の火山礫。このサイズなら、落下時の破壊力は小さくなかっただろう。火口からの距離は5.5km。10月31日に萩原佐知子撮影。



図 5 9月16日11時56分のブルーム。御代田町塩野から撮影。この日は、一日中このような噴煙が山上に立ち昇った。



図 6 自動車の屋根の上に降り積もった火山灰 (0.7 g/m^2)。9月17日朝、東京都あきる野市で青谷知己撮影。

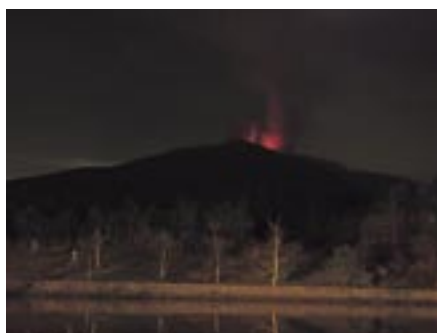


図 7 9月19日の火映。無風だったため、山頂火口から噴煙がまっすぐ立ち昇り、その基部が例外的な明るさで赤く輝いた。この火映は、肉眼でもはっきり認められた。



図 8 9月23日の爆発で火口中心から450m地点に着地した火山弾(百トン岩)。2005年9月17日撮影。



図 9 2005年3月19日の火映。最後のブルカノ式爆発から4ヶ月が経過しても、明るい火映が撮影できた。